

2025年度

沖縄大学大学院

夜間・土曜開講制

現代沖縄研究科

◆地域経営専攻

◆沖縄・東アジア地域研究専攻

OKINAWA UNIVERSITY
GRADUATE SCHOOL



大学院案内・募集要項



2025年度 沖縄大学 大学院案内・募集要項

Graduate School of Okinawa University

Contents

沖縄大学憲章	1
沖縄大学大学院現代沖縄研究科の理念・目的	2
学長挨拶	3
研究科長挨拶／専攻主任挨拶	4
修了生の紹介	5
現代沖縄研究科でなにが学習・研究できるのか？	6
(修了生のテーマ)	

沖縄大学大学院 ここが魅力！

夜間・土曜開講制

長期履修制度

沖大出身者は受験料・入学金半額

(詳しくはP.21、募集要項ページへ)

地域経営専攻

地域経営専攻のポリシー	9
地域経営専攻の教育課程の特色	10
開設科目一覧	11
教員紹介	12

沖縄・東アジア地域研究専攻

沖縄・東アジア地域研究専攻のポリシー	16
沖縄・東アジア地域研究専攻の教育課程の特色	17
開設科目一覧	18
教員紹介	19

働きながら学べる研究環境と支援体制	21
-------------------------	----

2025 年度学生募集要項

入試の概要・学費等
出願書類一式

沖縄大学憲章

～地域共創・未来共創の大学へ～

沖縄大学は、2008年に創立50周年を迎えるにあたり、「地域共創・未来共創の大学へ」を新たな建学の理念として確認し、以下の3つの目標を立て、実行することを宣言しました。

1. 地球市民・地域市民の共育の拠点

①地球市民のための知の集積の拠点：

沖縄大学の建学の理念である「地域に根ざし、地域に学び、地域と共に生きる、開かれた大学」を大学存立の使命として深く自覚し、21世紀型社会である「グローバル社会」の要請に応える形でこの理念を「地域共創・未来共創の大学へ」と発展させ、地球大で考え足元から行動を起こす21世紀型市民である「地球市民」の共育をめざします。

②地域市民のための地域教育の拠点：

沖縄大学は、地域に根ざす大学として沖縄にしっかりと根をおろし、教育と研究の相乗効果で沖縄の活性化に尽力し、そのことを通じて学生を共育し大学の活性化を図ります。また、県都那覇市にある大学として、「人々が相互に交流し、実践し、生涯学び続ける地域教育の拠点」となることをめざします。

2. 地球環境・地域環境に貢献する教育研究

①地球環境に取り組む実践教育：

21世紀は、環境危機が深刻化する世紀です。地球温暖化が進行すれば、沖縄の未来も、世界の未来もありません。沖縄大学は、「エコキャンパスからエコシティへ」というスローガンを掲げる大学として、まず足元のキャンパスから始め、沖縄から世界に向けて地球温暖化防止の実践教育を展開します。

②地域環境に取り組む研究提言：

戦争は最大の人権・環境破壊です。世界で年間150兆円も注ぎ込まれるといわれる軍事費は、貧困や地球環境問題などの地球規模の課題を解決するためにこそ使われるべきです。そのために沖縄大学は、自立した平和な沖縄を実現すべく、沖縄を軍事基地のない島とする多様な研究提言や実践に取り組みます。

3. 共創力を育む大学教育への変革

①ユニバーサルな大学づくり：

現代の大学には障がいのある学生を含め多様な学生が入ってきます。沖縄大学は学生の力に依拠しつつ大学の責任を果たし、多様な学生の学びと育ちを支援するユニバーサルな大学づくりをめざします。

②人間力としての共創力の涵養：

沖縄大学が育成をめざす21世紀型市民とは、「他者との対話と協働を通じてより良い社会を創っていく力のある人間」、「日々変動する社会の中で生涯学び続ける意志を持ち自らの人生を切り拓くことのできる人間」です。こうした21世紀型市民として学生を育成するために、沖縄大学の教育課程の編成にあたっては、「何を教えるか」ではなく「何ができるようになるか」を重視します。アジアの人々との共生の基盤となる異文化への関心と理解力を高めます。「競争力から共創力へ」、このスローガンのもと沖縄大学は、学生たちが互いに助け合い、教えあい、育ちあう環境を整備し、対話力・共創力・実践力のある人間の育成に努めます。

③学生主体の学びの場の共創：

人は、教えられることによって育つよりも、むしろ試行錯誤を含めた実践を通じて自ら学ぶことにより育つものです。従って大学づくりにおいては、学生を大学の主人公にすえ、学生の可能性を最大限に引き出し、学生の主体的な参加を得て更に活力のある沖縄大学へと自己変革していきます。学生も教職員も、大学づくり、地域づくりの実践の中で育ち、育てられ、そのことを通じて沖縄大学は、今まで以上の高い評価を地域社会から勝ち得ていきます。

沖縄大学は、以上の3つの目標の実現に日々努め、地域共創・未来共創の大学に向け邁進します。そのことを通じて沖縄大学は、更なる発展をめざします。



沖縄大学大学院 現代沖縄研究科の理念・目的

本研究科の理念・目的は、現場志向、ネットワーク志向、学際志向を基本的な姿勢として、地域社会と一体となって問題と格闘するなかから、地域の自立的発展のための研究や問題解決の方法を構築することである。

沖縄は米軍基地が高密度で集中し、それが地域の住民の平和を脅かすという、日本と東アジア、太平洋地域、あるいは日米関係の矛盾が先鋭的にあらわれている場である。

また、沖縄は亜熱帯気候の島嶼という自然環境を有しており、水資源、エネルギー、食料などを含めて、地域の持続的な発展可能性の課題をかかえる地域でもある。

このような現実的で実践的アプローチを必要とする地域のかかえる課題に取り組んでいくには、現代沖縄の社会・文化・政治・経済・歴史・思想といったさまざまな面に関する深い理解が不可欠である。

また、人文社会科学の諸分野の成果を総合し、「民間学」として出発した、近現代の沖縄学を批判的に継承するとともに、沖縄の社会や文化を新たな視点で解明していく必要がある。そのためには、近隣のアジア諸地域との比較や関係性の探究を通じて、沖縄社会を考察していくことが重要となる。とくに、東アジア地域を視野に入れることで、それが沖縄社会をより多面的なものとして、複眼的に考察する視点が与えられ、複雑に錯綜した現代の沖縄社会の構造的な分析に寄与することにつながる。

また、沖縄において、公共政策や産業育成、まちづくりを含めた地域社会の新たな発展という課題に挑戦していくには、従来以上に、行政と地域の住民、さまざまな組織や企業体、そして大学や研究機関など、多様な主体が連携・協働して地域社会を創造し、運営していくという発想が必要となる。

地域社会が抱えるさまざまな課題に取り組むためには、経済、法、社会、政治、教育、福祉等にかかわる諸学問領域のみならず、環境や生態、都市計画等の諸分野の知見と総合させながら、実践的に探究する姿勢が重要である。

本研究科が取り組む現代沖縄研究は、地域社会の諸課題に応え、地域社会の発展に寄与するものである。同時に、現代沖縄研究が対象とする諸課題のなかには、研究や実践における先例が乏しく、依拠すべき体系となる学問領域が必ずしも存在しない場合も多い。本研究科は、地域の住民の立場にできるだけ寄り添って自ら試行錯誤しながら探究するという現場志向、さまざまな視点やアプローチによって現場にかかわっている主体と連携していくというネットワーク志向、そして、既存の学問領域を複合させながら課題に取り組むという学際志向による研究の発展をめざす。

学長挨拶



沖縄大学 学長

山代 寛

YAMASHIRO Hiroshi

沖縄大学は徹頭徹尾地域志向の大学です。大学院も、従来の学問分野による縦割りの研究ではなく学際的総合的に現代沖縄を研究する「現代沖縄研究科」です。

【地域とともにある歴史】

沖縄大学は、米軍統治下の沖縄で1958年に嘉数昇先生により創設されました。当時の沖縄の高等教育機関は、米国民政府立の琉球大学のみであり、「本土」渡航もままならない状況でした。そのような中、沖縄大学は向学の志に燃える青年たちに学問の場を提供し、以来沖縄を背負う有為の人材を多数輩出してきたのです。その後、1972年の沖縄返還に伴う日本政府による県内私大の統廃合の政策に翻弄されることになりましたが、大学存続に向けた本学教職員・学生の尋常ならざる努力と、県知事の「沖大存続要請」、20万人署名運動、「沖大存続を求める県民総決起大会」など県民の支援、そして県外大学関係者からの多大な支援により、日本の大学として再認可を受け県民と共にある大学としての歴史を重ねることになりました。

【地域共創理念の明確化】

再認可後以後、大学再建に向けた苦難の道を歩むことになりますが、1978年には「地域に根ざし、地域に学び、地域と共に生きる、開かれた大学」の理念を打ち出し、新生沖縄大学の一步を踏み出しました。そして創立50周年を迎えた2008年、「地域と共に生きる大学」から、「地域とともに時代を創る大学」へと歩みを進め、「地域共創、未来共創の大学へ」という新たな理念を表明したのです。

【地域共創・未来共創の研究】

1988年、創立30周年事業として、琉球弧の抱える問題を大学内外の専門分野を異にする研究者の共同研究によって解明していく場を作ることを目的に地域研究所を設置し、そして2005年に大学院を創設しました。地域の大学である沖縄大学にふさわしく、「地域経営専攻」と「沖縄・東アジア地域研究専攻」からなる現代沖縄研究科です。沖縄大学から発する研究が、地道に地域を変える、新しい時代を共創することを念願しています。そのような志を持つ皆さんを心から歓迎します。いざ、地域共創・未来共創の大学へ！

研究科長挨拶



沖縄大学大学院 研究科長

名城 健二

NASHIRO Kenji

2021年度より大学院の研究科長を務めています。よろしくお願いします。

大学院は研究の場です。研究は、社会で起きている諸々の現象を感覚的な理解にとどめるのではなく、科学的な手法で調査し、その背景要因や事実を探究していく姿勢が求められます。私事ですが、福祉機関や医療機関でソーシャルワーカーとして働いていた頃、病気や障害を理由に生活苦を抱えている方たちを支援する中で、自身の感覚的な実践に疑問と限界を感じ大学院に進学することを決めました。大学院では、研究方法や新しい知識を得ると同時に、同じ院生の仲間たちとの日々の語り合いで大きな刺激をもらいました。仲間たちとのディスカッションが、より広い視点で研究を深めることにつながりました。

沖縄大学の大学院は、学際的な視点で多彩な研究分野の教員がいます。多様性が求められる社会において、多彩な視点を学ぶことの意義はとても大きいでしょう。研究を通し、一緒に大いに語り合しましょう。

専攻主任挨拶



地域経営専攻
専攻主任

石川 公彦

ISHIKAWA Kimihiko

地域経営専攻で明らかにする経済的、社会的課題（リサーチ・クエスチョン）は様々です。みなさんがオリジナルな課題を設定して、これを明らかにしていきます。答えは事前に用意されていません。過去に誰かが明らかにした答えをなぞるのではなく、みなさんが史上初の発見をしていきます。たとえその発見がささやかなものであったとしても、その発見は歴史に残り、将来の学術的發展に貢献するものとなります。

日々の生活のなかで、私たちは知らず知らずに特定の価値や社会的文脈に絡めとられて物事を見ていますが、大学院ではあらゆる価値を相対化し、価値自由の精神で答えを発見していきます。その研究過程は驚きと知的興奮の連続となることでしょう。



沖縄・東アジア地域研究専攻
専攻主任

前田 舟子

MAEDA Shuko

沖縄・東アジア地域研究専攻では、沖縄に根ざして東アジアとの関係性を捉える学問領域を提供しています。東アジア情勢（政治や社会構造）から沖縄の文化や歴史的な問題について考究することで、現代沖縄が抱える様々な問題の解明に取り組むことができます。本研究専攻には、沖縄地域研究分野と東アジア地域研究分野がありますが、どちらも沖縄を軸とした地域研究を行っており、フィールドワークなどを通して事例を集めながら、専門的かつ学際的な視点から問題解決の方法を概念化し、理論化する試みを行います。

私が研究する琉球史・中琉交流史の分野では、現代沖縄から過去に遡って、琉球王国時代の事象・人物・伝統・文化などを探究していますが、同時に、琉球王国時代から今の沖縄を照射することで、現代沖縄が抱える問題の所在を明らかにすることができます。本学学部生には、琉球の王族や士族にルーツを持つ子孫が多く、自分たちの先祖に関心を持って家譜・系図などを調べていくうちに、琉球史研究の楽しさを知って本学大学院に進学してくる学生もいます。研究のきっかけは人それぞれですが、本学大学院では研究のプロセスとして、比較・対照・総合という方法論的視座から、専門分野を超えて横断的に追究する学際的な研究を学ぶことができます。

かつて国際貿易都市として賑わった那覇にある唯一の大学院で、沖縄の歴史を探究する楽しさ、喜びを共に味わえればと願っています。

修了生の紹介



沖縄・東アジア地域研究専攻

新田 和馬

(2023年度 修了生)

「大学院で学んだこと」

私の研究は、学部時代に自分のルーツを明らかにすることから始まりました。琉球家譜と呼ばれる家系図を調べるなかで、先祖が泊村（現在的那覇市泊および前島）にルーツを持つことを知り、それ以来泊村に興味を持つようになりました。

大学院では、「琉球王国における泊村の歴史的役割について一泊土の実態を中心に一」というテーマで、泊村を調査しました。研究をとおして明らかになったのは、泊村が硫黄の生産や漂着民の収容、論祭の宴（前王を弔う儀式）を担っており、王国を内部から支える存在であったということです。表立って機能する那覇四町や久米村とは対照的に、泊村は「裏方」として王国を支えていました。

このような研究成果を2年間で出すことができたのは、先生方の手厚い指導や、院生同士の交流があったからだと思っています。今後はこの研究成果を地域に還元し、社会に貢献していきたいです。

〈修士論文の研究テーマ〉

「琉球王国における泊村の歴史的役割について一泊土の実態を中心に一」



地域経営専攻

長嶺 愛香

(2022年度 修了生)

「大学院で学んだこと」

私は大学病院の管理栄養士として勤務していた際に感じていた、「妊産婦の食の問題点」や「管理栄養士がより細やかに関わるにはどうしたらよいか」という主観的な疑問を大学院において研究することができました。病院の産科に介入して栄養指導を行い、データを集約後に分析することで全体的な傾向を客観的に把握し、エビデンスに基づいた議論ができることを学びました。出産・育児・仕事と両立しながらの研究・論文執筆は、夜間に子どもを抱きパソコンに向かう日々でしたが、多くの先生方に温かく支えて頂き修了することができました。研究及び院の講義においても、私の視野が広がる多様な内容を学ぶことができ、人生における糧となりました。

〈修士論文の研究テーマ〉

「妊産婦及び授乳婦における栄養の指導と栄養支援」

現代沖縄研究科でなにが学習・研究できるのか？

2006年度 修了生のテーマ

■地域経営専攻

- ・高根博樹：「沖縄県における赤土流出防止対策の政策的検討」

■沖縄・東アジア地域研究専攻

- ・後藤聡：「韓国近現代史における女性の地位の諸相とその変容」
- ・川満彰：「旧具志川市兼箇段村における村落空間」
- ・熊谷ふさ子：「沖縄における手縫い文化」
- ・平良勝保：「近代沖縄における旧慣・内法調査の研究」（現代沖縄研究奨励賞100万円受賞）
- ・程天虹：「琉球王国における中国との貿易関係について」

2007年度 修了生のテーマ

■地域経営専攻

- ・大城清一：「『場』の創造によるまちづくりの研究」
- ・赤嶺邦子：「少子高齢化における在宅介護の現状」
- ・金城義優：「危険運転死傷罪に関する一考察」
- ・劉振梅：「観光資源としての『琉球料理』の研究」
- ・喜瀬一郎：「『かけない』農業による熱帯果実の栽培実験」（特定課題研究）

■沖縄・東アジア地域研究専攻

- ・奥平一：「『国民教育』の考察」
- ・親川裕子：「国際人権法と琉球・沖縄」（現代沖縄研究奨励賞50万円受賞）

2008年度 修了生のテーマ

■地域経営専攻

- ・茶谷友以：「沖縄のIT産業の状況と人材確保・育成について」
- ・友利智美：「沖縄県NPO法人の現実と会計・税制・財務－提出書類の不備と今後の提案－」

■沖縄・東アジア地域研究専攻

- ・榮野川敦：「琉球・沖縄における漢籍文化の基礎的研究－琉球関係漢籍の書誌学的分析を通して－」（現代沖縄研究奨励賞100万円受賞）
- ・鳴海啓之：「アイヌ民族をめぐる歴史・政策から差別と偏見の原因を探る」

2009年度 修了生のテーマ

■地域経営専攻

- ・北島修：「沖縄のソフトウェア産業の多様化・高度化について」
- ・井上聖：「『自發』と『開發』－個人と地域が力を取り戻す生き方へのトランジション－」
- ・新美喬之：「沖縄県における海面利用と総合調整機能の可能性－宮古ダイビング事件を事例とする美ら海連絡協議会の取り組み－」

■沖縄・東アジア地域研究専攻

- ・高橋弘：「宮古島における人頭税制の特徴に関する研究－その廃止運動とまなざしに関する一考察－」

2010年度 修了生のテーマ

■地域経営専攻

- ・比嘉克政：「浦添市における歴史まちづくりの方向性についての考察」
- ・周波涛：「中国の乳製品産業における後発優位性戦略」
- ・西原民雄：「沖縄県立病院の現状と課題について」
- ・前原千穂：「自動車産業における顧客との信頼関係の構築」

■沖縄・東アジア地域研究専攻

- ・劉艶：「東アジアの舟漕ぎ儀礼に関する調査研究」
- ・松野市子：「沖縄県における女性労働に関する基礎的研究」（現代沖縄研究奨励賞50万円受賞）
- ・島田勝也：「明治政府の南西諸島への海底電信線敷設に関する考察」
- ・横山正見：「聴覚障がい者のアイデンティティ形成に関する研究」

2011年度 修了生のテーマ

■地域経営専攻

- ・王娉婷：「中国化粧品市場における多国籍企業経営戦略の比較研究」
- ・邱瓊：「日中両国の観光政策と沖縄県の国際観光への取り組みについての考察」
- ・金城和哉：「農を基とした地域再生に関する研究」
- ・幸地順子：「観光の概念と南城市におけるSustainable tourismの導入」
- ・與那嶺新：「市民的公共性による地域自律型『住民自治』」

- ・上原政幸：「モズク養殖業分析用産業連関表の構築とその潜在市場の分析、並びに政策的含意の研究」
- ・小川利明：「精神障害の労災認定基準に関する一考察」
- ・嘉数千賀子：「那覇市における『放課後子どもプラン』の実証的研究」
- ・嘉数睦：「沖縄における病弱教育の歴史研究」
- ・柴山卓郎：「泡盛の本土流通における現状と課題」
- ・石建仲：「日中貿易構造の変化」
- ・外間淳也：「刑事責任能力判断基準に関する一考察」
- ・宮城哲子：「実態調査から見る医療的ケアを要する障がい者の卒業後の地域生活」
- ・山城尚子：「地域再生と食育の役割」

■沖縄・東アジア地域研究専攻

- ・儀間真貴子：「スリランカ文化におけるつながりの概念とその実態」（現代沖縄研究奨励賞受賞）
- ・小笠原快：「沖縄社会の都市化によるコミュニティの変貌と可能性」
- ・新城健太：「沖縄社会における疎外的状況へのアプローチ」

2012年度 修了生のテーマ

■地域経営専攻

- ・長嶺真子：「沖縄県における派遣看護師の継続教育プログラムの構築－フィジカルアセスメントに焦点を当てた継続教育の可能性－」

■沖縄・東アジア地域研究専攻

- ・石川幸代：「沖縄県北部離島・僻地の保健医療の変遷－伊平屋村の保健医療に携わった人々と民間療法－」
- ・宇根底洋子：「沖縄県における墓地の実態と課題」
- ・大城弘子：「未成年喫煙者の禁煙行動を促すアプローチの検証－沖縄の高校生の禁煙支援を通して－」
- ・黄婧：「清末における日本留学の研究－中国人女子留学生を中心に－」

2013年度 修了生のテーマ

■地域経営専攻

- ・砂川悦子：「公的医療機関におけるチームマネジメント－褥瘡対策チームを対象として－」
- ・山本剛：「学校経営における教職協働を促すストーリーテリングについて－学校組織での共有化、協働化－」
- ・大嶺夏子：「沖縄県内の地方自治体におけるキャリア開発支援環境について
－研修制度とジョブ・ローテーションを連携したキャリア開発支援環境の構築－」
- ・伊佐敬太：「効果的な人材育成を行うための組織改革について」
- ・趙文博：「中国人旅行者の旅行先選択行動に関する一考察」

■沖縄・東アジア地域研究専攻

- ・佐久川正美：「青木恵哉の救済思想についての一研究」

2014年度 修了生のテーマ

■地域経営専攻

- ・石田友里：「沖縄の地域社会における認可外保育施設の役割と課題－自治会幼児園、共同保育園、自主保育活動の事例から－」

■沖縄・東アジア地域研究専攻

- ・鈴木陽子：「病むことと排除－沖縄のハンセン病者の在り方から－」（現代沖縄研究奨励賞50万円受賞）

2015年度 修了生のテーマ

■地域経営専攻

- ・福山翔：「ギャングリング障害と他の依存との関連性について－実態の把握と支援方策の検討－」
- ・新地毅一郎：「新産業創出による経済効果の産業関連分析－バイオ燃料を事例に－」
- ・銘苅愛子：「巡回相談員と特別支援教育コーディネーターの連携に関する研究－発達障がいの児童生徒を中心に－」
- ・又吉節子：「性犯罪規定に関する一考察－性犯罪の適正処罰に向けて－」

■沖縄・東アジア地域研究専攻

- ・赤池敏生：「戦後沖縄におけるマス・メディアの普及と地域社会－親子ラジオを中心に－」

2016年度 修了生のテーマ

■地域経営専攻

- ・王泰龍：「技術革新におけるコンテンツ多角化戦略－なぜ、台湾ゲーム企業は最悪の不況を乗り切ったのか－」
- ・齊藤登：「来沖外国人観光客を通じた国際物流に係る考察」
- ・玉栄宏：「要援護高齢者の災害避難に関する現状と課題－A市の災害対策の現状と介護支援専門員へのアンケートからの新しい提唱」
- ・外間誉也：「新技術による市場の再定義と活性化－なぜ、映画館は栄光を取り戻したのか」
- ・前川美紀子：「スポーツ少年団指導者の食育意識に関する実態調査－A県を事例に－」
- ・宮城翔：「国と地方公共団体の関係における裁定的関与に関する一考察－沖縄県辺野古新基地建設をめぐる争訟から見た論点と対抗措置の研究」

■沖縄・東アジア地域研究専攻

- ・宜保翔太：「近代日本における道德教育の歴史的研究－沖縄県を中心に－」

2017年度 修了生のテーマ

■地域経営専攻

- ・漢那一将：「少年法に関する研究－歴史的視点を踏まえて－」
- ・金城佐枝美：「使用者及び役員等の第三者に対する責任に関する一考察－その法的性質の考察を中心に－」
- ・島袋真理：「医療事故における紛争処理の研究」
- ・當原直子：「『性刑法』に関する研究」
- ・比嘉恵子：「不登校生徒に対する支援の在り方に関する研究－沖縄県の高等学校の教育相談における養護教諭の関わりを中心に－」

■沖縄・東アジア地域研究専攻

- ・藤原健：「『沖縄戦の記憶／記録を継承する』という思想－戦記として『土地の記憶』を描いた『沖縄戦新聞』にみる戦後沖縄の新聞ジャーナリズムから－」（現代沖縄研究奨励賞100万円受賞）

2018年度 修了生のテーマ

■地域経営専攻

- ・柴田忠佳：「学校における効果的な喫煙防止教育のあり方に関する研究」
- ・宇田薫：「『ゆいまーる』と地域包括ケアシステム（自助・互助・共助・公助）における『互助』との関連性」

■沖縄・東アジア地域研究専攻

- ・賀数淳：「唐手の発達と伝承から考察する沖縄伝統空手の定義」（特定課題研究）
- ・林家瑄：「地域に根差した持続可能な農業をめぐる思想と実践－近年沖縄における有機農業の生産と流通を事例に－」

2019年度 修了生のテーマ

■地域経営専攻

- ・潘亮亮：「テンセントとポニー・マー－なぜリバース・イノベーションが発生するのか」
- ・宇根悦子：「沖縄県における介護保険制度の成立過程と課題」
- ・宗靖涵：「市場環境変化に対応する経営戦略の選択と転換－なぜ、公文教育研究会は少子化時代に生き残ったのか－」
- ・中嶋昇：「地域振興における産業クラスター形成の意義と要件」
- ・森田清志：「災害に強いこどもを育むための支援について～『自助』『共助』『公助』で行う防災意識の啓発と教育～」

■沖縄・東アジア地域研究専攻

- ・樋口淳一：「20世紀初頭ハワイにおける沖縄系移民の挑戦と展開－呼寄せ移民と地域イノベーションに注目して－」

2020年度 修了生のテーマ

■地域経営専攻

- ・城間かおり：「慢性期病院における低栄養患者の臨床検査データに基づく評価および栄養管理と連携」（現代沖縄研究奨励賞50万円受賞）
- ・瑞慶村洋子：「戦後沖縄の通貨交換の研究－第一次通貨交換から第六次通貨交換（1946-1972）」

■沖縄・東アジア地域研究専攻

- ・蘇方：「清代における琉球官生の帰国後の役割について」
- ・丁憐：「貴州における屯堡文化資源の観光化開発・利用に関する研究－安顺市平壩県における天龍 屯堡を事例として」

2021年度 修了生のテーマ

■地域経営専攻

- ・知念恵美子：「スクールソーシャルワーカーの支援を促進する信頼関係構築のありかた～支援困難事例の分析を通して～」
- ・海野高志：「沖縄県における地域を基盤とした子どもの居場所と包括的な支援ネットワークのあり方～日常生活圏域における子どもの居場所の可能性について考える～」

■沖縄・東アジア地域研究専攻

- ・佐藤勝彦：「沖縄返還における琉球政府と建議書－1969年～1971年」
- ・毛屹峰：「清代琉球王国の進貢貿易について－進貢品の分析を中心に」
- ・恵和枝：「米軍統治下の沖縄の子ども観と「語り」の変容～「由美子ちゃん事件」を中心に～」

2022年度 修了生のテーマ

■地域経営専攻

- ・長嶺愛香：「妊産婦及び授乳婦における栄養の指導と栄養支援」

2023年度 修了生のテーマ

■沖縄・東アジア地域研究専攻

- ・新田和馬：「琉球王国における泊村の歴史的役割について－泊土の実態を中心に－」

地域経営専攻

地域経営専攻のポリシー

学位授与方針 (Diploma Policy)

沖縄の地域社会が直面する経済的、社会的課題を専門的および学術的に解明する研究能力を有し、以下のいずれかの視点から、将来の学術的發展に貢献できる。

- (1) 沖縄の経済や産業構造の問題を調査分析し、問題解決の方向性を示すことができる。
- (2) 地域社会における法律や自治に関する諸問題を分析し、政策の提言等ができる。
- (3) 沖縄の健康、保健、福祉等の実践的課題に取り組み、課題解決の方策を提示できる。

【修了判定・学位授与の基準】

- (1) 本研究科に2年以上在籍し、本研究科所定の講義科目および演習30単位以上取得し、中間発表会を経て学位論文等を作成し、学位論文等の審査に合格した者に学位を認定する。
- (2) 学位論文等審査においては、対象領域の研究水準に関する基本的な知識、研究テーマの方法および内容の明確さ、独創性、論文の体系性と一貫性、文章の完成度等の観点から、公正かつ慎重に判断される。

教育課程編成方針 (Curriculum Policy)

地域経営専攻では、沖縄社会が直面する諸問題について、専門的かつ総合的に対応するため「経済経営・産業分野」「法律・自治分野」「健康福祉・生活環境分野」「基礎研究」「事例研究」の5区分で編成する。

- (1) 「経済経営・産業分野」では、沖縄の地域経済や産業構造、経営をめぐる諸問題について基礎的知識や研究方法を総合的に学ぶ。
- (2) 「法律・自治分野」では、地域社会における法律や自治について、基礎的知識や研究方法を総合的に学ぶ。
- (3) 「健康福祉・生活環境分野」では、沖縄の健康、保健、福祉やまちづくりについて基礎的知識や研究方法を総合的に学ぶ。
- (4) 「基礎研究」では、調査研究法を中心にしてその基礎的手法を学ぶ。
- (5) 「事例研究」では、企業や自治体、医療機関や福祉施設等、地域経営の現場の課題を実践的に学ぶ。

上記5区分に加えて、「演習」では、「研究導入演習」「研究指導演習」を通じて、指導教員が修士論文や特定課題研究の指導を行なう。

入学者受入方針 (Admission Policy)

地域経営専攻は、沖縄の地域社会が直面する経済や産業構造、法律や自治、健康福祉、生活環境等の諸課題を学際的に解明し、将来の学術的發展に貢献しようとする以下の人材を求める。

- (1) 大学院での研究に必要な基本的素養があること。
- (2) 希望する研究分野に関して問題意識があること。
- (3) 課題に継続的・主体的に取り組むための意欲・能力があること。

地域経営専攻の教育課程の特色

地域経営専攻では、「経済経営・産業分野」「法律・自治分野」「健康福祉・生活環境分野」の3分野に分けて、多彩な科目群を用意しています。

01

講義科目

演習科目、特に1年次必修の研究導入演習と並行して総合的、学際的な研究視点を獲得し、また各自の学問的関心に基づいて専門的な知識を得るために設置してあるのが選択科目としての講義科目です。

経済経営・産業分野では、沖縄経済論の構造的問題や今後の経済振興のための方策について考究します。

法律・自治分野では、法学や地域政策の諸科目を学ぶことで、地域社会の法的な問題や、地方自治に関わる諸問題を考察します。

健康福祉・生活環境分野では、環境やまちづくり、保健、福祉に関する課題を分析します。

法律・自治分野と健康福祉・生活環境分野は、地域の安心・安全に寄与できる科目を充実して配置しています。

02

基礎研究科目

「量的研究法入門」と「質的研究法入門」、「アカデミック・ライティング」を設置しています。これらの科目は調査に基づく実証的研究の基礎や入門となる科目です。データの統計的処理の基本についても学びます。

03

事例研究科目

現場での実践的な課題を理解し、具体的な問題解決の方途を考究するために、「経済経営・産業分野」「法律・自治分野」「健康福祉・生活環境分野」の事例研究を配置しています。フィールド調査等の実際的な研究を通じて、現場志向の実践的な研究を進めることができます。

04

演習科目

2年間にわたる一貫した演習を通じて、取り組むべき問題の発見、課題の解決に向けた研究テーマを設定し、修士論文あるいは特定課題研究を完成できる指導体制を用意しています。

05

研究実践

地域研究所での研究実践への参加

沖縄大学地域研究所では、本専攻所属教員の多くが学内所員として研究活動を行っています。希望する院生や修了生は、こうした地域研究所の共同研究に特別研究員として参加することで、実際の研究活動を間近に見るとともに研究の方法や手法について指導を受けることができます。

2024年度 現代沖縄研究科 地域経営専攻 開設科目一覧

区分	区別	科目名	期別	クラス	単位	配当年次	担当者	備 考
経済経営・産業分野 	選	イノベーション特論	—	01	2	1・2	崔珉寧	2024年度不開講
	選	公共経済学特論	—	01	2	1・2	——	2024年度不開講
	選	会計学特論	前	01	2	1・2	朱愷雯	2024年度不開講
	選	国際経済学特論	—	01	2	1・2	——	
	選	マーケティング特論	前	01	2	1・2	豊川明佳	
	選	人的資源管理特論	前	01	2	1・2	島袋隆志	
	選	日本経営特論	後	01	2	1・2	石川公彦	
	選	沖縄企業・ビジネスモデル研究	後	01	2	1・2	與那原建	
法律・自治分野 	選	社会学特論Ⅰ	前	01	2	1・2	圓田浩二	2024年度不開講
	選	社会学特論Ⅱ	後	01	2	1・2	圓田浩二	
	選	労働法特論	—	01	2	1・2	——	
	選	社会保障法特論	—	01	2	1・2	——	
	選	比較法政策研究	—	01	2	1・2	——	
	選	地方自治特論	後	01	2	1・2	島袋純	
	選	企業法特論	前	01	2	1・2	谷口友一	
	選	憲法特論	前	01	2	1・2	高良沙哉	
	選	自治法学特論	—	01	2	1・2	——	
	選	民法特論	—	01	2	1・2	吉本篤人	
	選	刑法特論	—	01	2	1・2	——	
	選	地域福祉特論	前	01	2	1・2	朴賢貞	
健康福祉・生活環境分野 	選	地域計画特論	前	01	2	1・2	小野啓子	2024年度不開講
	選	地域保健・健康教育特論	—	01	2	1・2	山代寛	
	選	健康・運動教育特論	後	01	2	1・2	嘉数健悟	
	選	ソーシャルワーク特論	後	01	2	1・2	玉木千賀子	
	選	メンタルヘルス特論	後	01	2	1・2	名城健二	
	選	沖縄自然環境特論	前	01	2	1・2	藤井晴彦	
	選	臨床心理学特論	後	01	2	1・2	吉川麻衣子	
	選	福祉政策と参加特論	後	01	2	1・2	金蘭姫	
	選	公衆衛生学特論	—	01	2	1・2	——	
	選	公衆栄養学特論	—	01	2	1・2	——	
	選	発酵食品学特論	—	01	2	1・2	——	
	選	栄養・代謝学特論	—	01	2	1・2	——	
	選	食品科学特論	後	01	2	1・2	宮良恵美	
	選	分子栄養学特論	後	01	2	1・2	下地みさ子	
	選	量的研究法入門	後	01	2	1・2	吉川秀樹	
	選	質的研究法入門	前	01	2	1・2	吉川秀樹	
	選	アカデミック・ライティング	前	01	2	1・2	吉川秀樹	
基礎研究 	選	法律・自治分野事例研究	集	01	2	1・2	高良沙哉	夏期集中
	選	経済経営・産業分野事例研究	集	01	2	1・2	島袋隆志	夏期集中
	選	健康福祉・生活環境分野事例研究	後	01	2	1・2	名城健二	

22
単位
選択
必修

区分	区別	科目名	配当年次	担当者	備 考
演習	必	研究導入演習Ⅰ、Ⅱ	1	専任教員	} 8単位必修
	必	研究指導演習Ⅰ、Ⅱ	2	専任教員	

2024年度

地域経営専攻 大学院担当教員紹介



経済経営・産業分野



法律・自治分野



健康福祉・生活環境分野



事例研究



基礎研究

修士論文指導教員

■石川 公彦

専攻主任

E-mail : ishikawa-k@okinawa-u.ac.jp

◎代表著書・論文

- 「賃金・時短闘争」『日本労働年鑑』第81集～第91集、2011年～2024年（各年執筆担当）。
- 「日本の労使関係における基底的特徴の再検討—労使間の連続性・融解性・『従業員』性の生成」明治大学経営学研究所『経営論集』第71巻第4号、409-438頁、2024年。
- 「『次代の人事労務提言プロジェクト』報告書」（共著）、社会保険労務士総合研究機構、2019年。
- 「小特集に寄せて：CSR経営とグローバル枠組み協定の締結にみる日本企業の変化と可能性」『社会政策』第8巻第1号、93-97頁、2016年。
- 「非正規労働者の組織化における主体とリーダーシップの複線化—旧イオンリテール労働組合の事例から」『労働法律旬報』第1831+32号（2015年1月合併号）、122-134頁、2015年。
- 「経済社会を創造するまちづくりの論理」『一橋ビジネスレビュー』61 巻2号（2013年秋号）、56-71頁、2013年。

◎研究テーマ：日本企業における人事労務制度の研究、まちづくり

◎専門分野：日本経営論、人的資源管理論、労使関係論、まちづくり



■小野 啓子

◎代表著書・論文

- 『沖縄におけるサトウキビ農業自立のための方策 ハワイにおけるサトウキビプランテーションの土地利用転換に学ぶ』、沖縄県対米請求権事業協会・助成シリーズNo.49、2014年
- ‘A Study of Urban Morphology of Japanese Colonial Towns in Nan’yo Gunto : Part5 Ponape, Yap and Jaluit Branch Districts (Shicho)’ 日本建築学会計画系論文集2012年6月 第77巻 第676号
- ‘A Study on the Coastal Walk on the Eastern Coast of Metropolitan Sydney, Australia’ 土木学会論文集 D1(景観・デザイン)Vol.68(2012)No.1
- 壺屋やちむん通り景観設計(2003年度土木学会デザイン賞優秀賞)

◎研究テーマ：太平洋島嶼地域の日本人町研究、地域開発と観光等

◎専門分野：都市計画、都市史、地域開発

■島袋 隆志

◎代表著書・論文

- 「保護者の働き方」、島村聡、山野良一他編著『令和5年度 沖縄子ども調査 高校生調査報告書』沖縄県子ども未来政策課、2024年3月、(第1章担当)。
- 「子育て支援拠点の廃止問題」『住民と自治』自治体問題研究所編(722)4-、2023年6月。
- 「報告から分かる『よい仕事』が生まれる3つのこと：第3分散会」『所報協同の発見』協同総合研究所編(366)72-74、2023年5月。
- 「戦後沖縄の経済、雇用・労働」おきなわ住民自治研究所編『平和で豊かな沖縄をもとめて「復帰50年」を問う』自治体研究社、2022年7月。
- 「社会・家族 沖縄の労働状況」、上間他編『復帰50年沖縄子ども白書2022：子どもが生きる・暮らす 沖縄のいまとこれから』かがわ出版、2022年5月、(第5章担当)。
- 「ジョブ型社会」と「よい仕事」 協同総合研究所編『所報協同の発見』(354)、2022年5月。
- Yang-Tae Kim, Takashi Shimabukuro. (May 2022). A Study on Grobal EV Shift and the Strategy of Japanese Automobile Industry : KJEMS (The Korean-Japanese Journal of Economics & Management Studies)

◎研究テーマ：戦後おきなわにおける「働き方・働かせ方」の変化。労働の側面からの企業評価の構築。

◎専門分野：経営労務論、雇用関係論、人的資本論。

Master's thesis

■高良 沙哉



◎代表著書・論文

- 「安保関連三文書改定と沖縄」『法と民主主義』第576号 2023年
- 「旧優生保護法仙台地裁判決の検討」『沖縄大学人文学部紀要』第24号 2021年
- 「日本軍『慰安婦』問題と沖縄基地の接点」『思想』第1152号 2020年
- 「琉球/沖縄における植民地主義と法制度」木村朗・前田朗編『ヘイト・クライムと植民地主義』（共著）三一書房 2018年
- 「沖縄と『慰安婦』問題」『ジェンダーと法』第14号 2017年
- 「憲法の掲げる平和主義と自衛隊の強化—石垣市・宮古島市の自衛隊配備問題を中心に」『地域研究』第18号 2016年
- 『「慰安婦」問題と戦時性暴力』法律文化社 2015年

◎研究テーマ：軍事性暴力、基地問題と憲法

◎専門分野：憲法学（平和主義、ジェンダー）

■崔珉寧



◎代表著書・論文

- 「プータンから考える沖縄の幸福」（共著）芙蓉書房出版、2011年
- 「『ご当地ラーメン』の地域ブランド戦略」（共著）新評論、2009年
- 「中小都市「B級グルメ」戦略」（共著）新評論、2008年
- 「『村』がブランドになる時代」（共著）新評論、2007年
- 「地方圏の産業振興と中山間地域」（共著）新評論、2007年
- 『日本企業研究のフロンティア第2編』（共著）有斐閣、2006年

◎研究テーマ：イノベーションの史的分析

◎専門分野：経営戦略論、イノベーション論

■名城 健二



研究科長

E-mail : nashiro@okinawa-u.ac.jp

◎代表著書・論文

- 「沖縄県A市におけるヤングケアラーの実態調査」（単著）地域研究、第30号、2023
- 「メンタルヘルス課題のある母親の妊娠と出産後、子どもの幼児期におけるニーズ調査—生活上の困り感に焦点を充てて—」（単著）沖縄大学人文学部紀要第26号、2023
- 「要保護児童対策地域協議会ケースにおける虐待者のメンタルヘルス疾患と他の要因との関連性」（単著）沖縄大学人文学部紀要第24号、2021
- 「乳児を育児中の母親の自尊心や赤ちゃんへの気持ちに関する調査」（単著）沖縄大学人文学部紀要第23号、2020
- 「母子保健を担当する保健師へのメンタルヘルスの課題を抱える（疑われる）母親支援の現状調査」（単著）沖縄大学人文学部紀要、20号、2018
- 「メンタルヘルスの課題を抱える母親とその子ども支援及び関係機関の連携の現状と課題—沖縄県A市における関係機関へのインタビュー調査から—」（単著）精神保健福祉、113号、2018
- 「精神科ソーシャルワーカーの実践とかわり」（単著）中央法規出版、2007

◎研究テーマ：メンタルヘルス課題のある保護者とその子ども支援の方法

◎専門分野：精神保健福祉

■圓田 浩二



◎代表著書・論文

- 著書『援助交際からパパ活へ—出会い系メディアの社会学—』、単著、2023年（刊行予定）、青弓社
- 著書『ポピュラーカルチャーからはじめるフィールドワーク』、共編著、2022年、明石書店、執筆担当箇所「『スマホゲーム』のフィールドワーク」
- 著書『ダイビングのエスノグラフィー—レジャー・ダイビングにおける観光開発と自然保護—』、単著、2022年、青弓社
- 著書『ポケモンGOの社会学—フィールドワーク×観光×デジタル空間—』、単著、2022年、関西学院大学出版会
- 著書『戦後空間と米軍基地』、共著、2014年、新曜社、執筆担当箇所「アメ女のセクシュアリティ—米軍兵士と交際する女性たちのエスノグラフィー—」
- 著書『社会学的フィールドワーク』、共著、2004年、世界思想社、執筆担当箇所「援助交際のフィールドワーク—ある恋愛変容の物語から—」
- 著書『誰が誰に何を売するのか—援助交際にみる性・愛・コミュニケーション—』、単著、2001年、関西学院大学出版会

◎研究テーマ：沖縄・日本における社会問題

◎専門分野：社会学（観光・環境・地域・青少年・メディア・セクシュアリティ）

■山代 寛



◎代表著書・論文

- 『禁煙外来における患者のサポート』月間保団連 2018年3月 No.1259
- 禁煙学 第2版 共著「バレンクリンを使った指導法」を分担 2010年南山堂
- 「喫煙対策 沖縄大学の取り組み」沖縄医学会雑誌・2009年11月30日・48巻
- 沖縄で学ぶ福祉老年学（山代他編）2009年 学文社
- 禁煙学 第1版 共著「地域（公民館、集会場を含む）」を分担 2007年南山堂
- 「タバコのHistorical Accidentに関わったキリスト者医師「堀俊造」について」日本禁煙学会雑誌2007年10月号

◎研究テーマ：タバコ規制をはじめとするNCD対策 健康長寿県沖縄の再生

◎専門分野：ライフサイエンス 健康科学 医学一般



advisor

■嘉数 健悟



◎代表著書・論文

- Influence of acculturation and professional socialization on student teachers' beliefs about teaching physical education. *Asian Journal of Sport and Exercise Psychology*, 3 (3), 192-199, 2023
- Student teachers' development through a first-time teaching practicum and challenges: A qualitative case study approach. *Journal of Education for Teaching*, 49(3), 401-415, 2023
- Teacher Education issues in Okinawa. *Post-Imperial Perspectives on Indigenous Education: Lessons from Japan and Australia*. Routledge, pp.151-169, 2021
- 小学校にみる教科書の不在。体育の科学71(10), 694-698, 2021
- 体育科で求められる「教材」とは：グローバル時代だからこそローカルな視点を。学校教育1229号：14-21, 2021
- 体育科教師教育研究の動向と課題について—Tinningの理論的方向性による研究の分類から—。体育科教育学研究35(2), 1-16, 2019

◎研究テーマ：保健体育教師の継続的な力量形成、教職課程の質保証

◎専門分野：教師教育学、教科教育学

■金 蘭姫



◎代表著書・論文

- 金蘭姫著「第17章 地域福祉とローカル・ガバナンス」牧里毎治・川島ゆり子・加山弾編著『地域再生と地域福祉—機能と構造のクロスオーバーを求めて—』相川書房, 2017年, p.171-186.
- 金蘭姫著「第3章 住民参加による地域福祉計画」牧里毎治・川島ゆり子・加山弾編著『地域再生と地域福祉—機能と構造のクロスオーバーを求めて—』相川書房, 2017年, p.13-18.
- 金蘭姫著「地域福祉政策におけるコミュニティソーシャルワーカーの役割についての一考察—事例をとおして—」沖縄大学人文学部『人文学部紀要』19号, 2017年, p.67-80.
- 金蘭姫著「コミュニティソーシャルワーカーによる地域福祉推進プロセスに関する研究—『公共空間』概念を用いて—」2012年2月, 関西学院大学審査博士学位論文.
- 金蘭姫著「地域福祉の実践方法としての対話的コミュニケーション・プロセス構築—コミュニティソーシャルワーカーの実践事例を通して—」関西学院大学人間福祉研究科『人間福祉学研究』(査読あり), 第3巻1号, 2010年11月, 107-122.

◎研究テーマ：地域福祉政策と『公共空間』づくり

◎専門分野：社会福祉、地域福祉政策、コミュニティソーシャルワーク

■下地 みさ子



◎代表著書・論文

- A Survey of the Dietary Habits of Obese People (BMI ≥ 25) With Regard to Adults Working for Companies in Okinawa, 『地域研究』, 第30号p73-83, 2023年
- The Impact of Food Hygiene Experiments on the Food Hygiene Awareness of Undergraduate Students: Hand Bacteria and Nasal Vestibule Staphylococcus Aureus Test, 『地域研究』, 第30号p131-138, 2023年
- Effect of the Concentration of Various Polyunsaturated Fatty Acids in Human Follicular Fluid on Oocyte Maturation and Fertilization, *CEOS Obstetrics and Gynecology*, 2023; 1 (1): 1-8
- Genome sequence determination and metagenomic characterization of a *Dehalococcoides* mixed culture grown on cis-1,2-dichloroethene, *Journal of Bioscience and Bioengineering*, 2015; 120(1): 69-77
- Complete Genome Sequences of Eight *Helicobacter pylori* Strains with Different Virulence Factor Genotypes and Methylation Profiles, Isolated from Patients with Diverse Gastrointestinal Diseases on Okinawa Island, Japan, *Determined Using PacBio Single-Molecule Real-Time Technology Genome Announcements*, 2014; 2(2): e00286-14.

◎研究テーマ：一人ひとりのための栄養学

◎専門分野：栄養学

■朱 愷雯



◎代表著書・論文

- 「中小企業向け会計と税務との親和性に関する研究—中国小企業会計準則を中心として—」『地域研究』第28号、1-16頁(2022年)
- 「会計用語の日中対訳に関する研究」『経法商学部紀要』第2号、29-40頁(2021年)
- 「中小企業会計における収益認識」『法経学部紀要』第31号、1-12頁(2019年)
- 「中小企業の資金調達の現状から見る開示情報の信頼性保証」『中小企業会計研究』第4号、59-68頁(2018年)
- 「日本における中小企業の財務情報に対する信頼性保証の現状と課題」『商経学叢』第63巻第1号、153-166頁(2016年)
- 「中小企業の計算書類に対する保証モデルの類型的検討」『中小企業会計研究』第1号(創刊号)、28-40頁(2015年)
- 「アメリカにおける中小企業会計のフレームワークに関する研究—AICPAの見解を中心として—」『国際会計研究学会年報』2013年度第1号(通号33号)、91-104頁(2014年)

◎研究テーマ：中小企業の会計・監査・税務

◎専門分野：財務会計

■谷口 友一



◎代表著書・論文

- 『会社法の基礎[第2版]』(共著)法律文化社(2021年10月)
- 『[翻訳]欧州委員会 緑書(GREEN PAPER)EUのコーポレートガバナンスの枠組み』(単著)関西学院大学法政学会『法と政治』62巻 3号 289-316頁(2011年10月)
- 「コーポレート・ガバナンス規制における補完性と柔軟性—イギリスにおける「遵守又は説明」規定の生成と展開—」(単著)関西学院大学法政学会『法と政治』60巻 3号 51-110頁(2009年10月)
- 『[翻訳]取締役の報酬に関する 2007 年欧州委員会スタッフ報告書』(共著)関西学院大学法政学会『法と政治』60巻 3号 111-127頁(2009年10月)
- 『[翻訳]企業統治に関する2007年欧州委員会スタッフ報告書』(共著)関西学院大学法政学会『法と政治』59巻 3号 73-92頁(2008年10月)

◎研究テーマ：上場会社の経営管理機構に対する規制の在り方の研究

◎専門分野：商法、会社法

■玉木 千賀子



◎代表著書・論文

- 「地域社会生活実践者の基礎的実践スキルの形成—新人コミュニティソーシャルワーカー自己研修プログラムの検討—」(共著)『地域研究』沖縄大学地域研究所, 57-75, 2024年
- 「成年後見制度等における身上保護、意向確認・意思決定支援—ソーシャルワークの価値を基盤とした実践の重要性—」(単著)『ソーシャルワーク研究』47(1), 47-53, 2021年
- 「地域包括支援センターの包括的・継続的ケアマネジメント—浦添市の地域包括支援センターが共同で取り組む事例研修会の視点と方法—」(単著)『沖縄大学人文学部紀要』23号, 17-29, 2020年
- 「ヴァルネラビリティへの支援—ソーシャルワークを問い直す—」(単著), 相川書房, 2019年
- 「ヴァルネラブルな人の生活のしづらさに対応するコミュニティソーシャルワーク」(分担)『コミュニティソーシャルワークの新たな展開 理論と先進事例』中央法規出版, 96-107, 2019年
- 「ヴァルネラビリティに対する意向確認についての考察—社会福祉制度の動向にみる支援を必要とする人の意向確認のあり方—」(単著)『沖縄大学人文学部紀要』19号, 81-92, 2017年
- 「沖縄における団塊世代男性の地域活動への参加と生きがい—高齢期に移行する時期からの地域生活への支援のあり方を考える—」(共著)『琉球孤の島嶼集落における保健福祉と再生』南方新社, 37-46, 2017年

◎研究テーマ：社会的に脆弱性のある人の意向形成・表明の支援、ミクロ・メゾのソーシャルワークスキル

◎専門分野：社会福祉学、ソーシャルワーク

■豊川 明佳

◎代表著書・論文

- 「プレイス・ブランディングにおけるアイデンティティ・ベースド・アプローチの理論と実践ー沖縄におけるプレイス・ブランディングを対象として」『沖縄大学法経学部紀要』第3号,2021年
- The Collapse of the 'Myth of Longevity' and the Construction of Alternatives: The Case of the Okinawan Health Food Industry, The Journal of Organization Discourse, Vol.1 Issue,p.22-30,2020(査読あり)
- "An Examination of Tourist Migration Behaviour: The Case of Tourism in Okinawa",『沖縄大学法経学部紀要』第27号,2017年
- 地域ブランド研究における理論と実践ー「長寿」という表象をいかに用いたのかー『沖縄大学法経学部紀要』第20号,2013年
- "Market Analysis of Japanese Functional Food in the UK: Case Study of Okinawa"『沖縄大学法経学部紀要』第18号,2012年
- "Functional Food:A description of the UK Market",『地域研究』第10号,2012年

◎研究テーマ:プレイス・ブランディング

◎専門分野:マーケティングブランド、地域デザイン、プレイス・ブランディング

■朴 賢貞

◎代表著書・論文

- 「地域包括気システムに関する一考察ー日韓高齢者分野におけるコミュニティケアの視点からー、沖縄大学地域研究所、No.28、p17-36、2022年
- 『慶尚南道社会サービス院、慶南型スマートケアモデル開発研究』慶南道社会サービス院(韓国保健福祉部のモデル事業)、2020年1月、共著
- 「多職種連携教育ゲーム(Interprofessional Education Game:IPEG) 日本語版の開発」、医学教育50(2) p199-p202 日本医学教育学会誌、2019年4月、(査読あり) 共著 Sundari Joseph (Robert Gordon University,UK) Keiko Abe, Hiroki Yasui, Mina Suematsu (Nagoya university Medic School),Hyun-Jeong (Sendai University),Lesley Diack, Morag McFadyen, Patrick Walker (Robert Gordon University), Jen haxton (NHS Grampian)The Great Britain SASAKAWA Foundation(笹川英日共同研究プロジェクト研究助成金研究成果)
- 「孤独死及び社会的孤立予防のため地域安全ネットワーク強化方策」釜山福祉開発院(韓国)2019年、共著
- 2014年 社会福祉共同募金会企画事業 研究プロジェクト「障害者自立生活モデル研究開発支援事業」研究プロジェクト顧問(韓国安城市) 社会福祉法人ハンギル(韓国)、社会福祉共同募金会(韓国)、2017年最終報告書、共著
- 「保健・医療・福祉分野の現任者を対象にした連携教育の研修による態度変化に関する研究」、JIPE 保健医療福祉連携日本保健医療福祉教育学会誌、3巻 2号、p60-67 単著、2011年3月、(科研費研究成果)(査読あり)

◎研究テーマ:医療保健福祉分野における多職種連携教育

◎専門分野:社会福祉学、地域福祉実践、多職種連携教育(IPE: Interprofessional Education)

■宮良 恵美

◎代表著書・論文

- "Proteomic profiling of HTLV-1 carriers and ATL patients reveals sTNFR2 as a novel diagnostic biomarker for acute ATL"(共著).Blood Adv.,4(6),1062-1071,2020.
- "Bioorganic compounds produced by the Fungus Monascus and their use in health sciences and medicine"(共著).Mini-Rev. Organic Chem.,9(1),11-19,2012.
- 「ソバキ葉抽出物の安全性評価」(共著).日食科工誌.,55(8),379-382,2008.
- 「ソバキ属植物の抗アレルギー・抗炎症成分」(共著).南方資源利用技術研究会誌.,23(1),21-27,2008.
- "Angiotensin I-converting enzyme inhibitory peptides isolated from tofuyo fermented soybean food"(共著).Biosci.Biotechnol. Biochem.,67(6),1278-1283,2003.

◎研究テーマ:亜熱帯生物資源の生体調節機能、ヒトT細胞白血病I型ウィルス(HTLV-1)及び成人T細胞白血病(ATL)に関する研究

◎専門分野:食品科学、応用生物化学、臨床検査

■吉川 麻衣子

◎代表著書・論文

- 「オンライン高齢者サポート・グループの可能性ー『沖縄戦を体験した人びとの語らひの場』のプロセスをもとに」(単著),人間性心理学研究39(1),1-11,2021年
- 「紡がれる記憶ー沖縄戦体験者と『見える物語綴り法』」(単著),臨床心理学増刊12,137-143,2020年
- 「トランスジェンダー青年が抱く性別違和感の思春期・青年期における変容過程ー複線径路・等至性モデル(TEM)による分析」(単著),沖縄大学人文学部紀要20,2018年
- 「沖縄県の学校現場における『性の多様性』の実態ー教職員を対象とした基礎調査をもとに」(単著),沖縄大学人文学部紀要19,2017年
- 「『沖縄戦を生きぬいた人びとー揺れる想いを語り合えるようになるまでの70年』」(単著),創元社,2017年
- 「『心理臨床の学び方ー脈脈を探る,体験を深める』」(編著),創元社,2015年
- 「沖縄県の高齢者を対象とした戦争体験の回想に関する基礎的研究」(共著),心理学研究,75(3),2004年

◎研究テーマ:沖縄戦体験者の心理学的研究,LGBTQ+(性の多様性)

◎専門分野:臨床心理学,人間性心理学

■吉本 篤人

◎代表著書・論文

- 「ドイツにおける自動走行の民事責任と道路交通法(StVG)の改正動向」交通法研究46号140頁(2018)
- 「不法行為法による経済的利益の保護とその態様」私法76号176頁(2014)
- 「純粋経済損失」概念の意義に関する一考察 沖縄大学法経学部紀要16号25頁(2011)
- 「純粋経済損失」に関する学説の検討ーイギリス法における議論を中心にー」法律論叢83巻1号269頁(2010)
- 「イギリス判例法における『純粋経済損失』に関する序論的考察」法律論叢82巻1号227頁(2009)

◎研究テーマ:純粋経済損失の意義と不法行為法の限界に関する研究

◎専門分野:民法、不法行為法

■島袋 純

非常勤

◎担当科目:地方自治特論

■藤井 晴彦

非常勤

◎担当科目:沖縄自然環境特論

■吉川 秀樹

非常勤

◎担当科目:質的研究法入門

■與那原 建

非常勤

◎担当科目:沖縄企業・ビジネスモデル研究

沖縄・東アジア地域研究専攻

沖縄・東アジア地域研究専攻のポリシー

学位授与方針 (Diploma Policy)

沖縄および東アジア諸地域の歴史、文化、社会等の領域の諸問題を学際的に解明し、以下のいずれかの観点から、将来の学術的發展に寄与することができる。

- (1) 沖縄の文化、歴史の諸問題や政治・社会構造を「東アジアのなかの沖縄」という視点から研究し、現代沖縄の文化的な諸課題の解明に取り組むことができる。
- (2) 東アジア諸地域の歴史、文化、社会の事象を研究し、現代沖縄の社会文化の諸問題の解明に結びつけて考察することができる。
- (3) 沖縄と東アジアの文化交流の推進モデルの構築に取り組むことができる。
- (4) 沖縄および東アジアの地域研究上の問題に専門的視点および学際的視点から取り組み、その問題解決の方法を概念化し、さらには理論化を試みることができる。

【修了判定・学位授与の基準】

- (1) 本研究科に2年以上在籍し、本研究科所定の講義科目および演習30単位以上取得し、中間発表会を経て学位論文等を作成し、学位論文等の審査に合格した者に学位を認定する。
- (2) 学位論文等審査においては、対象領域の研究水準に関する基本的な知識、研究テーマの方法および内容の明確さ、独創性、論文の体系性と一貫性、文章の完成度等の観点から、公正かつ慎重に判断される。

教育課程編成方針 (Curriculum Policy)

沖縄・東アジア地域研究専攻では、沖縄および東アジア諸地域の歴史、文化、社会等の領域の諸問題について、専門的かつ総合的に対応するため「沖縄地域研究分野」「東アジア社会文化研究分野」「基礎研究」「事例研究」の4区分で編成する。

- (1) 「沖縄地域研究分野」では、沖縄の歴史、文化、社会、政治、教育等に関する基礎的知識や研究方法を総合的に学ぶ。
- (2) 「東アジア社会文化研究分野」では、沖縄と関連するアジア諸地域の歴史、文化、社会、歴史等に関する基礎的知識や研究方法を学ぶ。
- (3) 「事例研究」は、「沖縄地域事例研究」および「東アジア地域事例研究」によって編成され、フィールドワークや参与観察、実践研究等を通じて、それぞれの専門的知識や研究方法を学ぶ。

上記3区分に加えて、「演習」では、「研究導入演習」「研究指導演習」を通じて、指導教員が修士論文や特定課題研究の指導を行なう。

入学者受入方針 (Admission Policy)

沖縄・東アジア地域研究専攻は、沖縄および東アジア諸地域の歴史、文化、社会等の領域の諸問題を学際的に解明し、将来の学術的發展に寄与しようとする以下の人材を求める。

- (1) 大学院での研究に必要な基本的素養があること。
- (2) 希望する研究分野に関して問題意識があること。
- (3) 課題に継続的・主体的に取り組むための意欲・能力があること。

沖縄・東アジア地域研究専攻の教育課程の特色

沖縄・東アジア地域研究専攻では、比較、対照、総合、学際という方法的視座から、沖縄や東アジアの文化や政治、社会、歴史などの諸問題について考察を深めていくためのカリキュラムを用意しています。

01

講義科目

講義科目は、多くの学問領域にまたがっていますが、2つの柱となる分野に大別されます。沖縄地域研究分野は、人類学、政治学、社会学、思想史、言語学、教育史、文化研究等の専門領域から、現代沖縄の社会構造や文化の問題について考究する分野です。また、沖縄近世史、沖縄近現代史の科目を置き、歴史的、通時的観点からも沖縄の社会、文化への理解を深めていきます。東アジア地域研究分野は、中国、台湾、韓国、ベトナムなどの東アジア地域の社会、歴史、文化について考察する分野です。また、「中琉日関係史特論」以下の歴史科目を学ぶことで、東アジアの歴史に対する理解を深めると同時に、〈東アジアの中の沖縄〉という視点から沖縄の歴史、社会、文化の諸問題に国際的な視点からアプローチします。

02

基礎研究科目

「量的研究法入門」と「質的研究法入門」、「アカデミック・ライティング」を設置しています。これらの科目は調査に基づく実証的研究の基礎や入門となる科目です。データの統計的処理の基本についても学びます。

03

事例研究科目

事前・事後の指導を受け、沖縄の諸地域や歴史、文化関係の資料センター、あるいは沖縄大学がネットワークを持つアジア地域の大学・研究機関においてフィールドワークを行うことができるよう、また、先端的研究や方法論の探究のため、「沖縄地域事例研究」および「東アジア地域事例研究」を設けています。

04

演習科目

2年間にわたる一貫した演習を通じて、問題解決、課題解決に向けた研究テーマを設定し、修士論文あるいは特定課題研究が完成できるような指導体制を用意しています。

05

研究実践

地域研究所での研究実践への参加

沖縄大学地域研究所では、本専攻所属教員の多くが学内所員として研究活動を行っています。希望する院生や修了生は、こうした地域研究所の共同研究に特別研究員として参加することで、実際の研究活動を間近に見るとともに研究の方法や手法について指導を受けることができます。

2024年度 現代沖縄研究科 沖縄・東アジア地域研究専攻 開設科目一覧

区分	区別	科目名	期別	クラス	単位	配当年次	担当者	備考
沖縄地域研究分野 	選	沖縄文化研究特論Ⅰ	—	01	2	1・2	成定洋子	2024年度不開講
	選	沖縄文化研究特論Ⅱ	—	01	2	1・2	成定洋子	2024年度不開講
	選	沖縄社会研究特論	後	01	2	1・2	石川恵吉	
	選	琉球方言特論	—	01	2	1・2	——	2024年度不開講
	選	沖縄現代史特論	前	01	2	1・2	若林千代	
	選	沖縄思想史特論	前	01	2	1・2	我部聖	
	選	沖縄文学特論	—	01	2	1・2	我部聖	隔年開講・2025年度開講
	選	沖縄歴史研究特論	前	01	2	1・2	前田舟子	
	選	沖縄近世史特論	後	01	2	1・2	平良勝保	
	選	沖縄子ども文化研究	—	01	2	1・2	——	2024年度不開講
	選	沖縄教育史特論	前	01	2	1・2	嘉納英明	
	選	地域研究特論	—	01	2	1・2	——	2024年度不開講
	選	地域文化特論	後	01	2	1・2	西章	
	選	地理学特論	後	01	2	1・2	糸数哲	
	選	平和研究特論	後	01	2	1・2	川満彰	
	選	ジェンダー研究特論	—	01	2	1・2	——	2024年度不開講
東アジア社会文化研究分野 	選	中琉日関係史特論	—	01	2	1・2	前田舟子	隔年開講・2025年度開講
	選	東アジア文化研究	後	01	2	1・2	呉世宗	
	選	東アジア社会研究	—	01	2	1・2	——	2024年度不開講
	選	環境民族学研究	後	01	2	1・2	石川恵吉	
	選	東アジアにおける琉球・沖縄研究	後	01	2	1・2	平川信幸	
	選	台湾文化研究	—	01	2	1・2	——	2024年度不開講
	選	東アジア国際関係史研究	—	01	2	1・2	若林千代	隔年開講・2025年度開講
	選	市民社会特論Ⅰ	前	01	2	1・2	吉井美知子	
	選	市民社会特論Ⅱ	後	01	2	1・2	吉井美知子	
	選	多言語社会研究	—	01	2	1・2	——	2024年度不開講
	選	中国言語文化特論	前	01	2	1・2	王志英	
基礎研究 	選	量的研究法入門	後	01	2	1・2	吉川秀樹	
	選	質的研究法入門	前	01	2	1・2	吉川秀樹	
	選	アカデミック・ライティング	前	01	2	1・2	吉川秀樹	
事例研究 	選	沖縄地域事例研究Ⅰ	—	01	2	1・2	我部聖	隔年開講・2025年度開講
	選	沖縄地域事例研究Ⅱ	—	01	2	1・2	我部聖	2024年度不開講
	選	東アジア地域事例研究Ⅰ	—	01	2	1・2	若林千代	2024年度不開講
	選	東アジア地域事例研究Ⅱ	—	01	2	1・2	若林千代	2024年度不開講

22単位選択必修

区分	区別	科目名	配当年次	担当者	備考
演習	必	研究導入演習Ⅰ、Ⅱ	1	専任教員	} 8単位必修
	必	研究指導演習Ⅰ、Ⅱ	2	専任教員	

2024年度

沖縄・東アジア地域研究専攻 大学院担当教員紹介



沖縄地域研究分野



事例研究



東アジア社会文化研究分野



基礎研究

修士論文指導教員

■我部 聖



◎代表著書・論文

- 「沖縄からサイドを読みなおす」『思想』2024年2月号(第1198号)、岩波書店、2024年
- 「米軍占領下の沖縄の表現における越境的想像力」『思想』2023年3月号(第1187号)、岩波書店、2023年
- 「沖縄文学史を読みなおす—沖縄文学に表現された『病』」『越境広場』第8号、越境広場刊行委員会、2020年
- 「『琉大文学』解説」『琉大文学』解説・総目次・索引」不二出版、2014年
- 「占領者のまなざしをめぐりぬける言葉—『琉大文学』と検閲」田中康博編『占領者のまなざし』せりか書房、2013年
- 「山之口鏡『会話』を読む—近代沖縄文学の葛藤」勝方=稲福恵子ほか編『沖縄学入門』昭和堂、2010年
- 「継続する戦争への抵抗—池沢聰『ガード』論」『日本近代文学』第78集、日本近代文学会、2008年5月

◎研究テーマ：アメリカ占領下の沖縄における文学思想史

◎専門分野：沖縄近現代文学、思想史

■成定 洋子



◎代表著書・論文

- 2019年、「沖縄女性をめぐる文化表象の政治学」、「福音と世界」(特集：沖縄という問いかけ)、No.74(9)、24-29頁。
- 土井智義・藤本秀平・成定洋子、2019年、「米軍占領初期の沖縄島における売買春と性病管理：ポール・H・スキューズ文書にみる布告の成立過程」、『地域研究』、No.24、63-77頁。
- 沖縄大学地域研究所共同研究班「沖縄における労働と教育に関する総合的研究」、2017年、『沖縄大学学部生のアルバイト実態調査報告書』。
- 土井智義・徳田匡・成定洋子・井上間従文、2015年、「鼎談「沖縄研究への展望：『理論』と『実証』の植民地的配分を越えて」」『言語社会』第9号、10-38頁。
- 2014年、「性産業従事者の「移動」を語る—沖縄県宜野湾市における歓楽街浄化活動を事例に—」、橋村修編『比較地域研究の新たなフレームワーク構築にむけて—モビリティをめぐるマイノリティとジェンダーの諸相—(2013年度東京学芸大学重点研究費研究成果報告)』、東京学芸大学教育学部人文科学講座地域研究分野、15-24頁。
- 2013年、「女性の被害とケア」宿谷晃弘・宇田川光弘・河合正雄(編著)『ケアと人権(人権 Q&A シリーズ)』、成文堂、61-68頁。

◎研究テーマ：沖縄をめぐる社会・文化変容に関する文化人類学的研究

◎専門分野：文化人類学、ジェンダー研究

■前田 舟子



専攻主任

E-mail : smaeda@okinawa-u.ac.jp

◎代表著書・論文

- 「古琉球の興亡—中華世界との交流を中心に—」『アジア人物史第6巻 ポスト・モンゴル時代の陸と海』集英社、2023年
- 「琉球王国の新時代」『アジア人物史第8巻 アジアのかたちの完成』集英社、2022年
- 「〈史料紹介〉ハーバード燕京図書館蔵「琉球国中山王尚穆貢表」について」『沖縄史料編集紀要』第43号、2020年
- 「知的拠点としての久米村—人材育成と対清関係を中心に—」『都市と久米村—近世琉球の町方』公益社団法人久米国鼎会、2019年
- 「蔡大鼎・林世功と琉球王国の滅亡」『久米村出身の人物と琉球王国』公益社団法人久米国鼎会、2018年
- (共著)『琉球沖縄の光と影—海域アジアの視野』五南図書出版社、2018年
- (史料集)『国立台湾大学図書館典藏 琉球関係史料集成』全5巻、国立台湾大学図書館、2013~2018年

◎研究テーマ：琉球関係満文档案、歴代宝案、満洲語、評価貿易、久米村、家譜

◎専門分野：琉球史、明清史

■若林 千代



◎代表著書・論文

- 「硝煙弾雨の向こう側—戦争フッテージと沖縄戦をめぐる二つのフィルム—」沖縄大学地域研究所「地域研究」第31号、2024年。
- 「天願事件再考—1950年代沖縄の政治事件に関する一考察—」『年報日本現代史』第27号、2022年。
- 「長期保有の決定」『沖縄県史各論編7現代』沖縄県教育委員会、2022年。
- 「占領と感染症—沖縄現代史における二つの病い—」『現代思想』2020年8月号。
- 「朝鮮戦争と沖縄—「知られざる戦争」を越えて—」明治学院大学国際平和研究所「PRIME」第43号、2020年。
- 「『吹きかえし』の風を待つ少年—東峰夫『オキナワの少年』と1950年代の沖縄—」法政大学沖縄文化研究所『沖縄文化研究』第47号、2020年。
- 「ジープと砂塵—米軍占領下沖縄における政治社会と東アジア冷戦、1945~1950—」有志舎、2015年。(著書)

◎研究テーマ：東アジア国際関係史・沖縄現代史・政治社会史・政治文化研究



Master's thesis advisor

■西 章

◎代表著書・論文

- 「相模原障害者殺傷事件が問いかけていること」、『哲学研究年報』第56輯、25～38頁、2023年
- Die Offenbarung des Schönen im Schweigen des Willens: Schopenhauer contra Nietzsche?, “Das neue Jahrhundert Schopenhauers”, Königshausen & Neumann, S. 301-313, 2022
- 「若きショーペンハウアーの哲学的構想における学位論文第一版の位置づけ：ノヴェンブレ論文を手引きとして」、『哲学研究年報』第52輯、90～102頁、2019年
- 「ショーペンハウアーは〈人間の尊厳〉を放擲したか？：共苦の実相から見た脳死・臓器移植問題」、『ショーペンハウアー研究』第21号、78～98頁、2016年
- 「ニーチェの芸術考察における反時代性」、『アルケー』No.15、128～138頁、2007年

◎研究テーマ：道具的理性批判、アウシュヴィッツと哲学、日本の障害者運動の意義

◎専門分野：哲学・倫理学、美学

■糸数 哲

◎代表著書・論文

- 遠隔模擬授業を体験した教職課程履修中の学生による授業者・学習者双方からみた同時双方向型遠隔授業の利点や課題、沖縄大学教職支援センター紀要 教職実践研究 第12号、2022年
- 教職課程履修中の学生が作成した学習指導案の検討—中学校社会科地理的分野および歴史的分野を事例に—、沖縄大学教職支援センター紀要 教職実践研究 第8号、2018年
- 流路工等の構造物が土石流の氾濫範囲に及ぼす影響、第8回土砂災害に関するシンポジウム論文集、2016年
- 土石流シミュレータを用いた土石流発生時の避難経路の検討、京都大学防災研究所年報 第59号B、2016年
- Characteristics of Storm Runoff in Small Granite Catchments Having Different Vegetation Recovery Conditions, International Research Society INTERPRAEVENT, 2014年
- 通常降雨イベントにより同定されたタンクモデルを用いた豪雨イベントの再現精度、水文・水資源学会誌 第26巻第2号、2013年

◎研究テーマ：山地流域における降雨流出過程、降雨時の水と土砂の流出

◎専門分野：地理学、水文学

■王 志英

◎代表著書・論文

- 中国語の“上”と“…上”の用法について、2010年10月8日、『中国語研究』第52号、62～74
- 中国語の動詞“取”、“拿”、“帶”について、2009年12月、沖縄外国文学会、『Southern Review』No.24、31～44
- 中国語の“冲”と“闯”の違いについて、2009年6月、『汉日理论语言学研究』、学苑出版社、316-325
- 認知的な観点による“过”と“…过”についての再分析、2008年5月、日中対照言語学会、『日中言語対照研究論集』第10号、74～87
- 命令・依頼の表現——日本語・中国語の対照研究、単著、2005年3月、勉誠出版社
- 中国語の語気助詞“吧”の伝達機能、1999年10月、白帝社、『中国語研究』第41号、8-17
- 中国語の「形容詞の命令文」と“一点儿”について、1999年10月、日本中国語学会、『中国語学』通巻246号、79-88

◎研究テーマ：中国語の現代文法、中国語類義語表現、中国と沖縄の野菜、野草の比較及びその料理法

◎専門分野：中国語学、日中対照言語学、中国語教育学

■石川 恵吉

◎担当科目：沖縄社会研究特論

非常勤

■呉 世宗

◎担当科目：東アジア文化研究

非常勤

■嘉納 英明

◎担当科目：沖縄教育史特論

非常勤

■川満 彰

◎担当科目：平和研究特論

非常勤

■平良 勝保

◎担当科目：沖縄近世史特論

非常勤

■平川 信幸

◎担当科目：東アジアにおける琉球・沖縄研究

非常勤

■吉井 美知子

◎担当科目：市民社会特論I・II

非常勤

■吉川 秀樹

◎担当科目：質的研究法入門

非常勤



働きながら学べる研究環境と支援体制

履修について

夜間・土曜開講制

高度の教養と知識や資格を求める社会人や生涯学習を望む院生のニーズに応えるため、講義科目や演習は、原則として平日の6校時・7校時(18:30~21:40)、土曜日の3・4・5・6校時(13:00~20:00)に開講されます。

セメスター制

現代沖縄研究科では、前学期または後学期ごとに講義科目が完結するセメスター制に基づいて教育課程が編成されています。また、夏季休暇等を利用して、集中講義を受講できるようになっています。これにより、学期ごとの履修計画が立てやすくなり、特に社会人学生にとっては、フレキシブルな履修や研究ができるよう配慮されています。

長期履修制度(留学生をのぞく)

2年間の修業年限を超えて、計画的に教育課程を履修し修了することを希望する社会人等の志願者について長期履修生(3年間修了)としての入学を認めます。手続は、入学時(4月)に行います。長期履修生が1年間で納入する学費は、入学金を除き、2年間の総額を3年で除した額になります。長期履修制度は、以下のような例に該当する者に適用します。

- (1)職業を有している者(社会人等)。
- (2)主婦・育児等の諸事情を有する者。
- (3)相当の年齢に達し定職がなくアルバイトなどで自らの生活費あるいは学費を賄っている者。
- (4)その他、研究科が相当な事情があると認めた者。

単位互換協定

沖縄大学(現代沖縄研究科)、琉球大学(人文社会科学研究科前期課程)、沖縄国際大学(地域文化研究科・地域産業研究科・法学研究科)、名城大学(国際文化研究科)の大学院間には単位互換協定があり、追加授業料なしで10単位までを修得することができます。

院生共同研究室

大学院生には共同研究室が用意されており、専用の机やロッカーが貸与されます。

また、共同研究室には、学内LANと接続された共同利用のコンピュータがあり、インターネットの利用が可能です。また学内のコンピュータ教室を利用することもできます。

特定課題研究による修了

「修士論文」だけでなく「特定課題研究」での修了も可能です。特定課題研究は、専攻領域に関わる特定の課題についての実地調査や文献調査を踏まえ、実務経験に基づいた内容や実践的内容等の研究成果をまとめたものです。

奨学金・奨励金について

奨学金制度

- 沖縄大学大学院研究奨励奨学金
- 沖縄大学同窓会奨学金
- 日本学生支援機構奨学金

現代沖縄研究奨励金

特に優れた修士論文又は特定課題研究を執筆し、それを基に出版に値する論文等を執筆した者であると推薦された者に100万円、また、博士後期課程入学者で、特に優れた学位論文をまとめ今後の研究活動を援助するにふさわしいと推薦された者に50万円を贈り、卒業後の研究活動を支援するものです。大学院を修了した日から5年以内に申請することができます。

「教育訓練給付制度」について

沖縄大学大学院現代沖縄研究科は「教育訓練給付制度厚生労働大臣指定講座(一般教育訓練給付)」の指定を受けています。

詳細はハローワークや沖縄大学大学院のホームページ等でご確認ください。

専修免許

専修免許

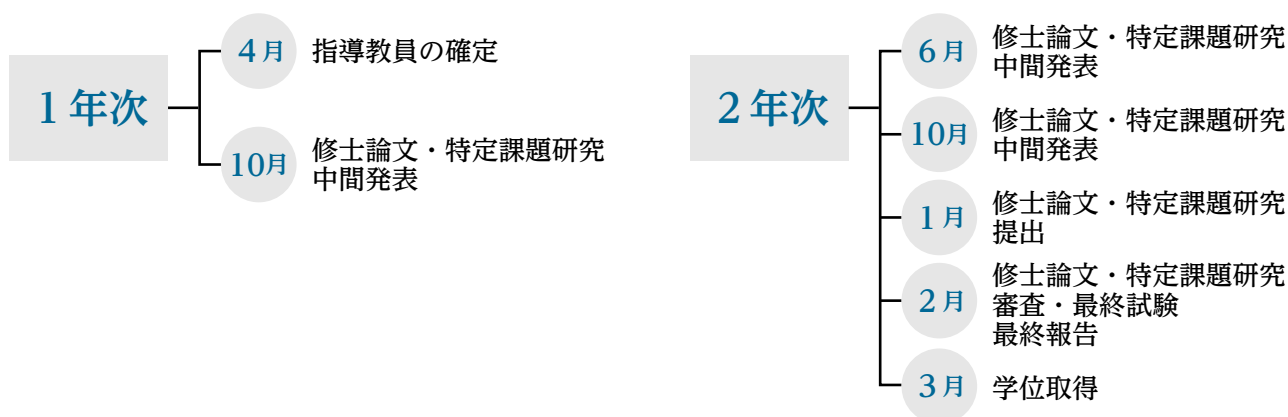
社会(中学)、公民・地理歴史(高校)の一種免許状保有者が本大学院を修了すると専修免許状を取得することができます(下図参照)。



学位授与までの流れ

現代沖縄研究科を修了するためには、2年以上在籍し、30単位以上を修得し、研究指導を受けて修士論文または特定課題研究を提出し、その審査と最終試験に合格することが必要です。そのうえで、最終報告を行います。

地域経営専攻を修了した者には修士(地域経営)の学位が、沖縄・東アジア地域研究専攻を修了した者には修士(地域研究)の学位が授与されます。



2025年度

学生募集要項

現代沖縄研究科

地域経営専攻

沖縄・東アジア地域研究専攻

【2025年度募集について】

沖縄大学大学院では、一般入試(10月試験・2月試験)とAO入試(10月試験・2月試験)で学生を募集しています。

- ▶一般入試(10月試験・2月試験)…一般選抜、社会人選抜、外国人留学生選抜
- ▶AO入試(10月試験・2月試験)…社会人選抜のみ

<社会人志願者の皆様へ>

沖縄大学大学院・現代沖縄研究科では、以下のような、社会人対象プログラムを設けています。詳しくは沖縄大学入試広報室までお問い合わせ下さい。

① AO入試（社会人選抜）

多忙な社会人のニーズに対し迅速かつ的確に対応するために、AO入試(10月試験・2月試験)を実施しています。

エントリー期間

[10月]2024年 9月 2日(月)～2024年 9月10日(火)

[2月]2025年 1月20日(月)～2025年 1月27日(月)

② 長期履修制度

2年間の修業年限を超えて、計画的に教育課程を履修し修了することを希望する志願者について、長期履修生(3年間修了)としての入学を認めます。長期履修生が1年間で納入する学費は、入学金を除き、2年間の総額を3年で除した額になります。 ※留学生はのぞく。(詳しくはP.21をご覧ください。)

③ 専修免許

社会(中学)、公民・地理歴史(高校)の一種免許状保有者は専修免許状を取得することができます。

1. 募集定員

専攻	一般入試			AO入試
	一般選抜	社会人選抜	外国人留学生選抜	社会人選抜
地域経営	5名			
沖縄・東アジア	5名			

2. 出願資格

入試区分		出願資格
一般入試	一般選抜	次の各号の一つに該当する者 (1) 大学を卒業した者または2025年3月までに卒業見込みの者。 (2) 学校教育法102条の規定により学士の学位を授与された者及び2025年3月31日までに授与される見込みの者。 (3) 大学評価・学位授与機構により学士の学位を授与された者(施行規則第155条第1項第1号) (4) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び2025年3月までに修了見込みの者。 (5) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び2025年3月までに修了見込みの者。 (6) 我が国において、外国の大学相当として指定した外国の学校の課程を修了した者(施行規則第155条第1項第4号)。 (7) 指定された専修学校の専門課程を修了した者(施行規則第155条第1項第5号) (8) 旧制学校等を修了した者。 (9) 防衛大学校、海上保安学校、気象大学校など、各省大学校を修了した者。 (10) 文部科学大臣の指定した者。 (11) 本研究科が、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者。※1
	社会人選抜	次の各号の一つに該当する者。 (1) 一般入試(一般選抜)の出願資格(1)～(10)までのいずれかの資格を取得してから、大学院入学までに2年以上の社会経験を有する者とし、必ずしも有職者とは限らない。 (2) 本研究科が、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者。※1
	外国人留学生選抜	次の(1)から(3)のすべてに該当し、かつ(4)または(5)に該当する者。 (1) 日本の国籍を有しない者。 (2) 「出入国管理及び難民認定法」における「留学」の在留資格を有する者、又は入学後に変更できる者。 (3) 修学に必要な日本語能力を有する者。 (4) 大学卒業までに16年以上を要する国の16年の課程を修了した者(2025年3月までに修了する見込みの者を含む)、又は当該国の教育官庁が大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者。 (5) 日本国内の大学を卒業した者、または2025年3月卒業見込みの者。
AO入試	選抜社会人	次の各号の一つに該当する者。 (1) 一般入試(一般選抜)の出願資格(1)～(10)までのいずれかの資格を取得してから、大学院入学までに2年以上の社会経験を有する者とし、必ずしも有職者とは限らない。 (2) 本研究科が、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者。※1

【注意事項】

※1 一般入試(一般選抜)の出願資格(11)、一般入試(社会人選抜)の出願資格(2)及びAO入試の出願資格(2)で出願する者は、出願資格確認のための事前審査を行いますので、あらかじめ入試広報室までお問い合わせ下さい。(出願資格審査のための書類提出があります)

3. 入試日程

	願書受付期間 (必着)	入試日	合格発表 ※1	入学手続期間 (必着) ※2
一般入試 (10月)	2024年 9月2日(月)～ 9月10日(火)	2024年 10月5日(土)	2024年 10月11日(金)	2024年 10月15日(火)～ 10月21日(月)
一般入試 (2月)	2025年 1月20日(月)～ 1月27日(月)	2025年 2月15日(土)	2025年 2月20日(木)	2025年 2月25日(火)～ 3月3日(月)

	エントリー期間	一次面談	願書受付期間 (必着)	二次審査(面談)	合格発表 ※1	入学手続期間 (必着) ※2
AO入試 (10月)	2024年 9月2日(月)～ 9月10日(火)	2024年 10月6日(日)	一次面談を経て 出願許可後～ 2024年10月21日(月)	2024年 10月26日(土)	2024年 11月8日(金)	2024年 11月11日(月)～ 11月18日(月)
AO入試 (2月)	2025年 1月20日(月)～ 1月27日(月)	2025年 2月1日(土)	一次面談を経て 出願許可後～ 2025年2月17日(月)	2025年 2月22日(土)	2025年 3月7日(金)	2025年 3月10日(月)～ 3月17日(月)

※1 合格者には、合格通知及び入学手続書類、不合格者にはその旨を通知します。

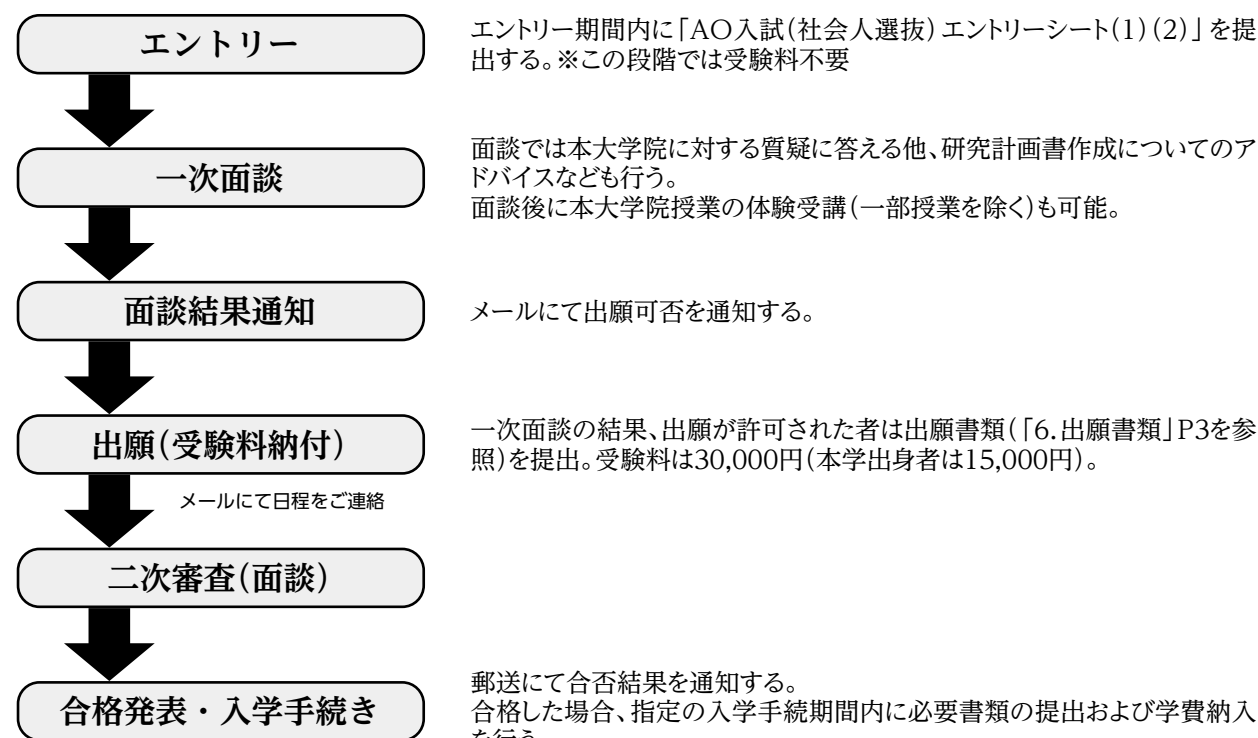
※2 入学手続についての詳細は、合格者に別途通知します。

4. 選抜方法

(1) 一般入試

	試験方法	一般選抜	社会人選抜	外国人留学生選抜
語学試験	英語	○	×	×
論述試験	各専攻の専門分野に関する小論文	○	○	○
口頭試問 ※日本語で実施	「研究計画書」をもとに、専門分野に関して行う。	○	○	○

(2) AO入試(社会人選抜のみ)



5. 入学検定料(受験料)

入試区分		納入期間	受験料
一般入試	10月	2024年 9 月 2 日(月)～ 9 月10日(火)	30,000円 ※ 本学出身者は 15,000円
	2月	2025年 1 月20日(月)～ 1 月27日(月)	
AO入試	10月	一次面談を経て出願許可後 ～ 2024年10月21日(月)	
	2月	一次面談を経て出願許可後 ～ 2025年 2 月17日(月)	

受験料は、所定の振込用紙に必要事項を記入の上、本学経理課窓口または最寄りの銀行窓口にて納入して下さい。

※経理課窓口受付時間9：00～12：00、13：00～17：15(土・日・祝日を除く)

※本学出身者が志望する場合、受験料が半額になります。その際は、振込用紙は使用せずに、本学経理課窓口でお支払い下さい。
お越しいただけない場合は、15,000円分の郵便為替を同封してください。その際、郵便為替には、何も記入しないで下さい。

6. 出願書類

※AO入試は、エントリー面談後「出願可」となった場合のみ提出。

下記の必要書類を揃え、市販の角2サイズ(ヨコ240mm×タテ332mm)の封筒に封入し、募集要項に添付されている「出願書類送付用封筒用紙」を貼り付け、郵送または入試広報室窓口にて提出してください。

◆願書提出について

(1)郵 送 の 場 合：書留郵便で提出。締切日必着。

(2)窓口提出の場合：本学入試広報室にて提出。

※入試広報室窓口受付時間／9：00～12：00、13：00～17：15(土・日・祝日を除く)

	摘 要	一般入試			AO入試 ※出願時のみ (エントリーでは不要)
		一般選抜	社会人選抜	外国人留学生 選抜	社会人選抜
入学志願票・ 写真票	本学所定用紙に必要事項を記入し、3ヶ月以内に撮影した正面上半身脱帽写真を貼って下さい。	○	○	○	○
受験票	本学所定様式に必要事項を記入して下さい。 ※試験日程については、メールにてご連絡いたします。受験票は試験当日にお渡しいたします。	○	○	○	○
成績証明書	在籍した大学等のもの	○	○	○ ^⑨	○ ^⑨
卒業(見込み) 証明書	在籍した大学等のもの ※卒業見込みの者は、卒業後に正式な証明書を提出して下さい。	○	○	○ ^⑨	○ ^⑨
卒業論文概要 (業績報告書)	本学所定様式を用いること ※卒業論文、研究報告書、学術論文等の業績を有する者のみ提出して下さい。	該当者	該当者	該当者	該当者
研究計画書	本学所定様式を用いること	○	○	○	○
在留カード、住民票、 パスポートの写し	住民票は在住している市町村発行のもので、出願1ヶ月以内に交付されたもの	×	×	○ ^⑨	外国人 ^⑨ のみ提出

⑨中国語と英語以外の各種証明書は全て日本語または英語の訳文を添付してください。

7. 試験会場

沖縄大学(沖縄県那覇市国場555番地)

8. 出願・受験上の注意事項

- (1) 提出された書類及び受験料等は、理由の如何に関わらず返還できませんのでご了承下さい。
- (2) 試験日程の連絡(メール)が試験日3日前までに届かない場合は、入試広報室までご連絡下さい。
- (3) 身体に障がいのある入学志願者で、受験上特別の措置を必要とする場合は、あらかじめ入試広報室までご連絡下さい。
- (4) 試験当日は試験開始15分前までには所定の場所へ集合して下さい。なお、試験開始後15分を経過すると受験を認めません。
- (5) 受験票は試験当日にお渡しいたします。筆記試験中は机上に提示して下さい。
- (6) 出願書類に関しては、本要項に記載されていなくても、本学が必要と判断した場合には特定の資料、証明書等の提出を求める場合があります。
- (7) 試験当日、「学校保健安全法」で出席停止が定められている感染症(インフルエンザ等)にかかり、^{ちゆ}治癒していない場合は、他の受験者等への感染のおそれがありますので、受験をお断りしています。その場合でも追試験等の措置はありません。
- (8) 自然災害・事故等の不測の事態により、入学試験日程の変更等の緊急措置をとる場合があります。入学試験をはじめ大学の情報は、本学webサイト(<http://www.okinawa-u.ac.jp/>)でお知らせしていますので、必ずご確認ください。
- (9) 出願等で得た個人情報、本大学院の入学選抜に関する業務のみで使用し、安全かつ適正な管理を行うとともに第三者に提供することは一切ありません。

9. 入学金及び諸学費

- 沖縄大学出身者の場合、入学金が半額の60,000円となります。
- 長期履修希望学生は、入学後教務課窓口にて申請が必要となります。初年度入学手続き時に限っては、以下の学費を納入していただき入学後に減額という形をとります。

一括納入

(単位:円)

	入学金	授業料	施設費	後援会費	学生保険料	合計
納入金	120,000 (本学出身者:60,000)	370,000	100,000	10,000	1,750	601,750 (本学出身者:541,750)

分割納入

(単位:円)

	入学金	授業料	施設費	後援会費	学生保険料	合計
入学手続き時 前期納入金	120,000 (本学出身者:60,000)	185,000	50,000	10,000	1,750	366,750 (本学出身者:306,750)
後期納入金	—	185,000	50,000	—	—	235,000

※入学手続き期間内に前期分または一年間分を支払って下さい。前期分を選択し支払った場合、入学後、9月頃に後期分の納付書をお送りいたします。

10. 入学辞退・学費返還

入学手続きをした者が、事情により本学への入学を辞退する場合は、2025年3月31日17:00までに本学所定の手続きをした者に限り、入学金を除く諸納入金を返還します。ただし、入学金は如何なる理由があっても返還いたしません。

書留分の
切手を貼り付けて
ください

9 0 2 8 5 2 1

沖縄県那覇市国場555番地

沖縄大学 入試広報室 行

【大学院出願書類他在中】

書留

書留引受番号

募集区分

	一般入試(一般)
	一般入試(社会人)
	一般入試(外国人留学生)
	AO入試(社会人)

志望専攻

	地域経営専攻
	沖縄・東アジア地域研究専攻

差出人住所

〒

フリガナ

氏名

電話番号(携帯等)

【郵送時の注意事項】

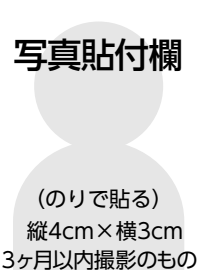
角形2号封筒(ヨコ240mm×タテ332mm)を各自用意し、封筒表面にこの用紙をしっかりと貼り付けてください。

角形2号封筒の
(ヨコ240mm×タテ332mm)
表面にのり等で
しっかり貼り付けてください。

沖縄大学大学院 AO入試（社会人選抜）
エントリーシート（1）

受付日	
受付番号	

※記入しないで下さい。

写真貼付欄 	フリガナ					
	氏 名					
	西暦	年	月	日生（ 歳）		
	現 住 所	〒				
	(必記入) メールアドレス	@				
電話番号	(自宅)	-	-	(携帯)	-	-
勤務先	名 称	(配属部署・役職名も記入)			TEL	
	所 在 地					

	年(西暦)	月	履 歴 事 項 (高等学校卒業以降すべてを記入)			
学			高等学校		卒業	
			大学	学部	学科	入学
			大学	学部	学科	卒業
歴						
(修士以上を記入)		学 位 名	大 学 名	論 文 題 目		
学						
位						

	年(西暦)	月	～	年(西暦)	月	勤務先・所属部署・役職等
職			～			
			～			
			～			
			～			
			～			
			～			
歴			～			
			～			

取得資格	年	月	
	年	月	
	年	月	

太枠内を記入してください。 ※データで作成可（沖縄大学ホームページより様式をダウンロード）

エントリーシート(2)

記入日 年 月 日

氏 名				* 記入事項が枠内に収まらない場合は別紙を添付し、提出してください。 (様式自由)	
志 望 理 由					
研究したい テーマと 概要	研究テーマ：				
	概 要：				
専攻 ※ 志望専攻に○を記入してください。		地域経営専攻			
		沖縄・東アジア地域研究専攻			
希望 指導教員 記入欄	大学院担当教員紹介ページ太枠 (p.12,13,19) の修士論文指導教員一覧より教員名を記入して下さい。				
	第 1 希望		第 2 希望		第 3 希望
特に学び たい分野	☐ 未定				
連絡欄 志願者から大学院側に伝えておきたい事項及び質問事項等について自由にご記入ください					

卒業論文概要(業績報告書)

氏名	
----	--

卒業論文概要(業績報告書)は、卒業論文、研究報告書、学術論文等の業績を有する者のみ提出して下さい。
※枠内に収まらない場合は別紙を添付し、提出してください。(様式自由)

[illegible]

[illegible]

研究計画書

氏名	
----	--

※枠内に収まらない場合は別紙を添付し、提出してください。(様式自由)

テーマ：
研究動機：
研究テーマに関する先行研究の状況：

※データで作成可（沖縄大学ホームページより様式をダウンロード）

[illegible]



沖縄大学への交通案内

バス

市内線：真和志小学校前下車、南（沖大）へ徒歩7分

●那覇バス 2 4 14

市内線：沖縄大学前下車

●那覇バス 6

市外線：那覇バスターミナルより、沖縄大学前下車

●沖縄バス 35 40 309 235

タクシー

那覇空港より20分～30分

モノレール

安里駅より徒歩20分

地域共創・未来共創の大学へ



沖縄大学
OKINAWA UNIVERSITY

QRコードより沖縄大学
大学院の各専攻の情報
が確認できます。



〒902-8521 沖縄県那覇市国場555番地
Tel 098-832-3270 / Fax 098-832-3271
E-mail adpr@okinawa-u.ac.jp
URL <http://www.okinawa-u.ac.jp/>